

那須の歴史
再発見!

那須町と 近現代の人々

vol.22



澤四郎 (1935-1996)

10月号は、高久出身の考古学者・澤四郎について紹介します。

澤四郎は、昭和10年に那須村高久に生まれました。澤は、黒磯高校から國學院大學史学科へ進学し、考古学を学びました。学生時代は、伊王野の考古学者・渡辺龍瑞を度々訪ねたり、大田原市湯坂遺跡の発掘調査に参加しています。

昭和33年、北海道へ渡り、釧路市教育委員会嘱託として、後に国指定史跡となる東釧路貝塚の発掘に従事しました。澤は、この貝塚の調査のなかで、貝塚が単なるゴミ捨て場ではなく、モノ送りの場として機能していたことを提唱しました。昭和35年からは釧路市立郷土博物館の正職員となり、新博物館建設に携わりました。また、昭和56年から平成4年まで釧路市立博物館館長を務

めました。その間、北海道教育大学などの非常勤講師も歴任しました。

北海道での澤は、道東の旧石器時代からオホーツク文化に関して調査・研究活動を行いました。北筒式土器の細分化・分類は彼の業績の1つです。また、釧路湿原の保護にも取り組み、地域住民と自然保護会を立ち上げ、その結果、釧路湿原は日本国内で第1号のラムサール条約登録に指定されました。

また澤は博物館と市民の生涯学習活動に力を入れました。春採湖の調査や、遺跡探訪会、市民向け講座など、地域を楽しく学ぶ「フィールドミュージアム」の考え方で、釧路の住民とともに自然環境や文化・歴史を後世の人々へ伝え遺そうと長年取り組みました。

澤は、博物館を「地域の素材に対しオリジナリティあるデータを提供し、釧路の地域性を主張することにより、釧路市の博物館がこの地方を理解する情報の拠点」であると述べています。町ではDMO設立が予定されていますが、澤が理

想としたように、探訪館などの施設が自然や歴史の情報とモノを集約し、町民・観光客の交流の場として機能することが今求められています。

(写真は釧路市立博物館、大田原教育委員会より提供いただきました。)

▼問合せ 那須歴史探訪館
☎74・7007



湯坂遺跡発掘風景
(正面左の手拭の人物が澤)

かつこう

旅の楽しみのひとつにお土産選びがあります。家族や友人に、隣やお向かいさんに、職場に、そして自分にも。名産品や特産品などその土地にちなんだ品物を買います▼旅の帰り際、道の駅に寄ったことがあります。広い店内に所狭しと並んでいるお土産物を見るだけでワクワクしてきます。贈る相手を思い浮かべながら、店

内をまず1周し、あの人には甘いものを、この人には柔らかいものを目星を付けていきます。「うわあ、おいしそう」「もう一つ余分に買っておこう」などと話しながら2周、3周すると、いつの間にか、買い物カゴは山盛りのお土産でいっぱいになっていました▼お土産は渡すだけではありません。近所に越してきたからと、挨拶と共に菓子を買っていただいたことがあります。また、近場のイベントでお土産を買うこともあります。9月17

日には、那須九尾まつりが4年ぶりに開かれ、家族連れなど多くの人でにぎわいました。飲食ブースや体験ブースなど数多くの出店があり、町の特産品の販売も行われ、来場者は、買い物やステージでの催し物を楽しみました▼楽しかった思い出のお裾分けに、いつもお世話になっている感謝の気持ちや、これからよろしくお願ひしますという心遣いを少しのせて相手に贈ります。お土産には、そんな気持ちを表す役割があると感じています。

こんにちは 赤ちゃん



令和4年10月生まれ

たかく ひなた
高久 陽向くん

ひなたくんは…

いつもニコニコ。周りを癒してくれます。

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。詳しくは企画政策課広報聴係(☎72-6935)まで。

町の世帯と人口

(9月1日現在・住民基本台帳) ()の数字は前月比

・世帯数	10,762世帯 (+9)	出生	6人 (+3)
・人口	24,139人 (+4)	死亡	34人 (+6)
	男 12,024人 (-4)	転入	85人 (+12)
	女 12,115人 (+8)	転出	53人 (-6)
		その他	0人

広報那須がスマートフォンなどで読むことができます



マチイロ

